

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

# 天地

## ネットワーク テーブル 475号

天地シニアネットワーク 2018年7月17日

\*\*\*\*\*

<b>TENTĪ TODAY</b>			1
<b>会員の広場</b>	<西日本豪雨、広島の惨状・久保禮次郎> <関西空港で・林英一> <シニアゴルファー：ケガの功名・小島武夫> <動画コーナー・小泉>		2
<b>連載作品</b>			4
随 想	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙を測れ 50. ラジオの原理	伊那 闊歩	4
回 想	「住民運動・横浜新貨物線反対運動」(1)	宮崎 省吾	8
随 筆	1950年代の僕と街(12)「中央線電車通学の思い出」	臺 一郎	11
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(48) 周山街道の古刹3・鷹ヶ峰の古刹・源光庵	大竹 漢洲	13
回 想	「思えば遠く来たものだ」(1)	津田 孚人	15
<b>講演会</b>	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」		16
<b>事務局</b>			17

\*\*\*\*\*

### TENTĪ TODAY

\*\*\*\*\*

西日本の豪雨に際して、プロ野球の広島カープが、対阪神3試合を中止にしました。安倍首相も急きょ外遊を取りやめました。どちらも、市民、国民の心情を慮っての行動でしょうが、世の中の受け止め方は違いそうです。

このところ自然災害が、地域を限らず発生しています。その度に、被災者が出て途方に暮れます。ゲリラ災害の多発、ここまできると国レベルでの一元な体制整備が求められます。災害庁など考えるべきだと思います。

\*\*\*\*\*

満81になり、ここまできると感概無量です。最近、過去と同じような事件が起きると、以前にも同じようなことがあったと、あらためて思い出すことがよくあります。

例えば、商工中金、スルガ銀行、東日本銀行など、融資先がないために、銀行ぐるみの不正融資に走って問題になりましたが、かつての教訓が生かされていないのに驚きます。超金融緩和時代、各金融機関は融資先の開拓に懸命となり、ノルマ達成に無理、無謀の努力をしました。バブルが弾けると、その努力が裏目になり、企業、個人など優良取引先を窮地に追い込み、死に追いやったケースも、新聞で報道されました。

驚くのは、銀行はまた同じことを繰り返す、そしてまた同じような被害者が出ています、ということです。一生のうちに二度も同じ嫌な事件を見ると、長生きし過ぎたと思ったりします。過去を学ばない日本の現代の風潮は問題ですが、過去を知らせない、残せない我々シニアにも問題があります。

最近話題を集めているNHKの“チョコちゃん”に“ボツ - トして生きてんじゃねーよ”と、どやしつけられそうです。

\*\*\*\*\*

## 会員の広場

\*\*\*\*\*

### 西日本豪雨、広島の様状

この度、西日本はたいへんな豪雨に見舞われ、広島ではかなり広い範囲で陸の洪水がおきました。拙宅のあたりでも今まで経験したこともないような激しい降雨で道路が一時川のようにになりました。水はけの悪いところでは、水位が軒下あたりまであがったそうです。山裾のあたりでは、広島独特の崩れやすい土壌が泥流となって民家に押し寄せ、家屋や車が失われました。テレビ報道によれば、広島の間もかしこもひどくやられたように見えますが被災したところは限られていて、雨が止んだらほとんどの箇所は平常通りです。

しかし、うちは助かったと思っても油断できんです。山のため池が晴れた日に突然決壊し家族が買い物にでている間に、あれー、自宅が破壊され流されることが頻繁にあるのですからね。

数年前にも同じようなことが起こり、いろいろ対策はとられていたのでしょうか、追いつかないのでしょうか。航空写真で見ると危険きわまりないようなところにも多くの家屋が建っている。そんな場所は宅地として認可すべきではないのですよ。すでに豪邸などが建ちならんでいると人は安心するのでしょうかね。

この度は、幹線道路（国道2号線）もちぎれてしまい、JRも復旧に2か月もかかるとのこと、新幹線は動いていますが、その混みようたるや、やれ、半端じゃありません。東広島市も陸の孤島状態ですよ。物流が途絶え、大型スーパーやコンビニも棚から、卵、ミルク、水、インスタントラーメン、パンが見事に消えました。今日（16日）はかなり回復しているようです。ウナギのかば焼きと生わかめのパックはズーッと売れ残っていますが、あれ賞味期限がとっくに切れているのではないのでしょうか。郵便もお中元の品物などもどこかで滞留しているのでしょうか。

危険を感じたら何もかもほったらかしてすぐに逃げること！記念写真やら愛用の枕（？）などとりかえに帰らないこと。もし命を落としたり、残された家族もたいへんです。遺体の捜索のためにどれほどの労力と費用がかかることか。他人事ではありません。どうか皆さま、脱水症に気をつけて、酷暑をやりすごしてください。

（2018. 7. 16 / 久保禮次郎）

\*\*\*\*\*

### 関西空港で

仕事で関西空港へ行きました。関西泉州空港というらしいですね。宿は泉佐野駅近くのその名もプリンスというビジネスホテルでした。空港では中国人が昔の農協団体のように旗を掲げる添乗員に連れられおとなしく2列で移動しているのにぶつかりました。中国も富が行き渡り始めたのでしょうか。祇園四条の「ロシアレストラン・キエフ」といえば以前予約した

ことがありましたが都合がつかずキャンセルしました。次回は訪問してみます。アメリカ在住の孫たちが来ていますが確実に日本語を忘れつつありますね。毎日曜にボランティアで日本語を教えている開発途上国や中東の子の優秀さには驚かされます。(林英一)

\*\*\*\*\*

### シニアゴルファー：ケガの功名？

懇親ゴルフ会を一週間後に控えていたある日ちょっとしたことで左手の親指を骨折しました。痛みがあることからゴルフクラブを握ることもできません。しかしコンペの世話役をしていることや人数の関係で欠席できにくい状況になり思案しているとき、ゴルフ仲間のシングルプレーヤーが2か月ほど前にグリップを野球グリップ(テンフィンガーグリップ)に変えたと言っていたことを思い出し、野球グリップなら左手親指を使わないでクラブを握ることができるかもしれません。早速素振りを試みると違和感があるものの指の痛みは我慢でき何とか振れそうです。

そこで直接ボールを打つべく近所の練習場に行きました。思ったよりうまくボールに当たります。しかし変な振りかたをすると左手親指がずれて右手とぶつかり思わず「イタタタ」と声を上げるほどでした。しかしそんなことも言っていないので、この状況でコンペに臨みました。ゴルフコースでは、ボールにうまく当たらず、方向性も余りよくはなかったですが同伴プレーヤーには怪我をしていることは気づかれずに何とかプレーを終えることができました。このグリップでは、右手が使えるのでボールをガツンと叩けるフィーリングを強く感じる事ができ、このグリップによって今までとは少し違ったゴルフができそうな気がしてきました。

ゴルフの習い始めの時、コーチから「野球握りはダメ、インターロックかオーバーラッピングで握れ、違和感を感じない握り方は正しくない、違和感を感じる握り方が正しいのだ。」と教えられました。40年間何の疑いもなくオーバーラッピングで握っていました。このオーバーラッピンググリップ(別名バードングリップ)は1800年代にプロゴルファーのハリー・バードン(全英オープン6回優勝、全米オープン1回優勝)が発明したそうです、その理由はフックに悩んでいたバードンが強すぎる右手を効かなくするためでした、その考え方からかゴルフの本には、「右手は添えるだけ左手でスイングする」とよく書かれています。それでは体力の落ちたシニアでは飛距離は落ちる一方、そんな時テンフィンガーグリップの右手でガツンと行きたいと思いませんか、このグリップは非力なシニアや女性には向いているようです。

最近、男子プロでは時松隆光、女子プロでは勝みなみがテンフィンガーグリップでよい成績を上げています。今まで当たり前と思われていたグリップ、その常識にとらわれず新鮮な感覚で楽しいゴルフをしたいですね。そうすればまた久々の開眼があるかもしれません。

(その後、2回ほどコースでプレーしてみましたが飛距離は前より出ているようですし、久しぶりに90を切ることができました。)(小島武夫)

\*\*\*\*\*

### <動画コーナー> yaku5151 (小泉)

関東は暑く・・・他は異常なる降水による被害が多く出ましたが、大丈夫でしたでしょうか？私は相変わらずNO天気動画作りを楽しんでおります少

し遅くなりましたが3点ばかり送ります。恐れと恥を知らぬ位の出来栄えですが「2018 爺の時事川柳」も作りました

サマーランドの紫陽花

[https://youtu.be/bZGFy\\_yiB2Y](https://youtu.be/bZGFy_yiB2Y)

サマーランドの「アナベルの雪山」

<https://youtu.be/FOYFGL2NHj8>

2018 爺の p 時事川柳

<https://youtu.be/mjXAKM6pWoQ>

\*\*\*\*\*

## 連 載 作 品

\*\*\*\*\*

天のわざ、地のほまれ  
—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

### 50. ラジオの原理

今回はまず電波について、そして電波を受信する装置として昔からわれわれに馴染みの深いラジオの仕組みについて調べよう。電波とは、その波長が0.1mm よりも長い電磁波で、そのスピードは真空中ならば光のスピードと同じ、秒速 299,792,458 m ( 約 30 万 km/s ) で伝わる波である(\*1)。

電波は、波長  $\lambda$  [m] (あるいは振動数  $f$  [Hz, ヘルツ]) によってその性質が特徴づけられ、理科年表によれば、電波は次の表のように分類されている(\*2)。

電波 (国際略称)	波長	振動数	用途
長波 (LF)	10 ~ 1 km	30 ~ 300 KHz	船舶、航空機通信
中波 (MF)	1km ~ 100m	300 ~ 3000 KHz	ラジオ放送
短波 (HF)	100m ~ 10 m	3 ~ 30 MHz	短波放送
超短波 (VHF)	10m ~ 1m	30 ~ 300 MHz	テレビ音声、FM 放送、
極超短波 (UHF)	1m ~ 10cm	300 ~ 3000 MHz	電子レンジ、ケータイ
センチ波 (SHF)	10cm ~ 1cm	3 ~ 30 GHz	衛星通信、レーダー
ミリ波 (EHF)	1cm ~ 1mm	30 ~ 300 GHz	電波望遠鏡、レーダー
サブミリ波	1 mm ~ 0.1 mm	300 ~ 3000 GHz	電波望遠鏡

(1 KHz = 1000 Hz, 1 MHz = 1000 KHz, 1 GHz = 1000 MHz)

1864年、英国の物理学者=現代理論電磁気学の祖とも崇められるジェームズ・クラーク・マクスウェル（1831-1879）は、理論的に電磁波が存在し、そのスピードは光速に等しいことを予言した。1887年、ドイツ人物理学者ハインリヒ・ヘルツ（1857-1894）は、独自の方法により電波（超短波）を発生させる装置を考案し、発生した電波を別の装置で受信することに成功したのであった。

ヘルツの実験の要点を以下に概観しておこう。まず、2つの金属球をせまい隙間をあけて空中に設置する。これら金属球を導線によって、あらかじめ充電しておいたライデン瓶(\*3)につなぐと、2つの金属球はそれぞれプラスとマイナスに帯電する。金属球間の電位差が高ければ、その間で放電が起こり、小さな稲妻が走るのが観察できるであろう。つまり、2つの金属球間に高電圧をかけることにより、金属球間（空气中）に電子の流れ（電流）が発生したわけだ。

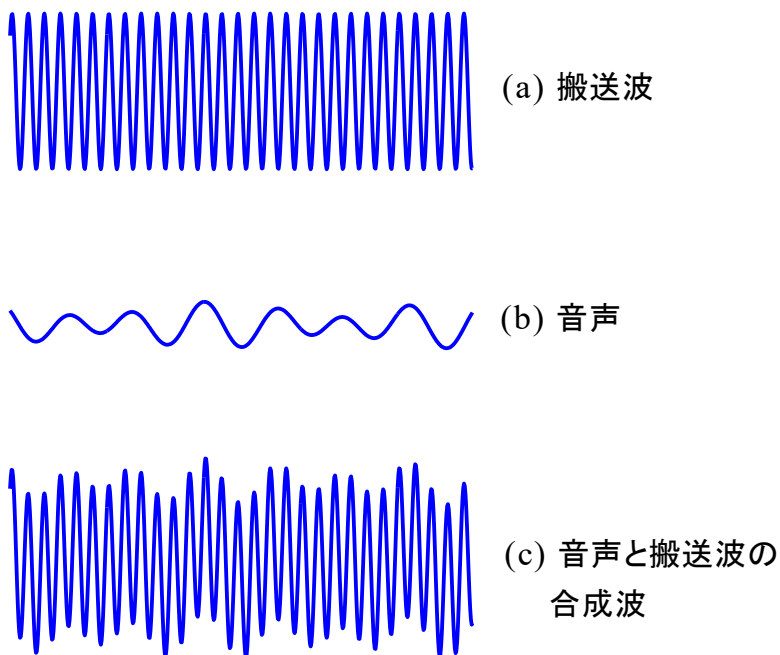
ヘルツは、ライデン瓶からの直流をたいへん巧妙な方法によって高電圧、高周波の交流に変換し、2つの金属球間に激しく変動する火花放電を発生させてみたのだ。この火花放電のまわりには磁束のループができる。しかもそれが激しく変化するので、ファラデー（またはレンツ）の法則にしたがってそこに（空中に）起電力が生じ電場を誘発する。火花放電の近くの空中に導線をおいてみれば電気が流れるであろう。この電場はさらに磁束のループをつくり、その磁場がまた電場を誘発する。火花放電が高周波の交流によって生じているので、火花放電→磁場→電場→磁場→・・・という電磁的な連鎖が生じ空中を電磁的な波となって伝わっていく。この波が電磁波である。この一見複雑なメカニズムは、真空中でも同じように起こる。つまり、電磁波は真空中にも存在して自由に伝播するのである。電磁波を伝える媒体は必要としないのである。

ヘルツは離れた部屋に、2つの金属球を同じように設置し、それぞれを1つのコイルの両端に導線で繋いでおいた。発生した電波はコイルの中の空洞を通過し（またファラデーの法則によって）コイルに電流を誘起する。実験はヘルツの目論見通りに進行し、別の部屋の金属球にも火花放電が観察されたのである。こうして電波の存在が確かめられたのだ。

さて音声など低周波の波を電磁波に変換しても発信することはできない（すぐに減衰する）。ところがこれを放送局の電波に乗せて発信することによって遠くまで届かせることができるのである。このとき放送局の電波を**搬送波**という。NHK 第一放送の周波数は 594KHz（波長 = 505m）であるから、中波(MF)を搬送波として採用しているのだ。ちなみに NHK・FM 放送の周波数は 82.5 MHz(波長 = 3.63 m) なので超短波(VHF)を搬送波として採用している。音声はアンプを通して発振器に入り搬送波に混ぜ込まれるのだ。搬送波に音声の波を混ぜることを「**変調**」という。アナログの変調方法には、**AM**（振幅変調）と **FM**（周波数変調）がよく知られている。AM は搬送波の振幅を音声電波に応じて変換する、一方、FM は搬送波の周波数を変換するのだ(\*4)。ところで、NHK 第一放送は AM 放送であって、その搬送波は fig.1 (a)

のような波である。この振動が 1 秒間に 594,000 回起こるのだ。fig.1(b) は音声を電気信号に変換した波である。そして音声を搬送波に乗せた波が fig.1(c) である。(c) の波の振動の頂点を結べば (b) の形になることを確かめていただきたい。放送局が発信する電波は fig.1(c) のような形をしていて、われわれの手元にあるラジオには、各放送局が発信する夥しい数の電波がアンテナを通して入ってくるのだ。

fig.1 AM電波



ラジオには、アンテナから入ってくる電波のうち、NHK 第一の電波を選別して他の局の電波をふるい落とす仕組みが備わっていなければならない。さらに捉えた電波を処理して音声だけを取り出さなければならない。このような機能を備えた装置のうち、必須な部品だけを揃えて出来たラジオの回路図が fig.2 である。これを**鉱石(ゲルマ)・ラジオ**と呼んでいる。

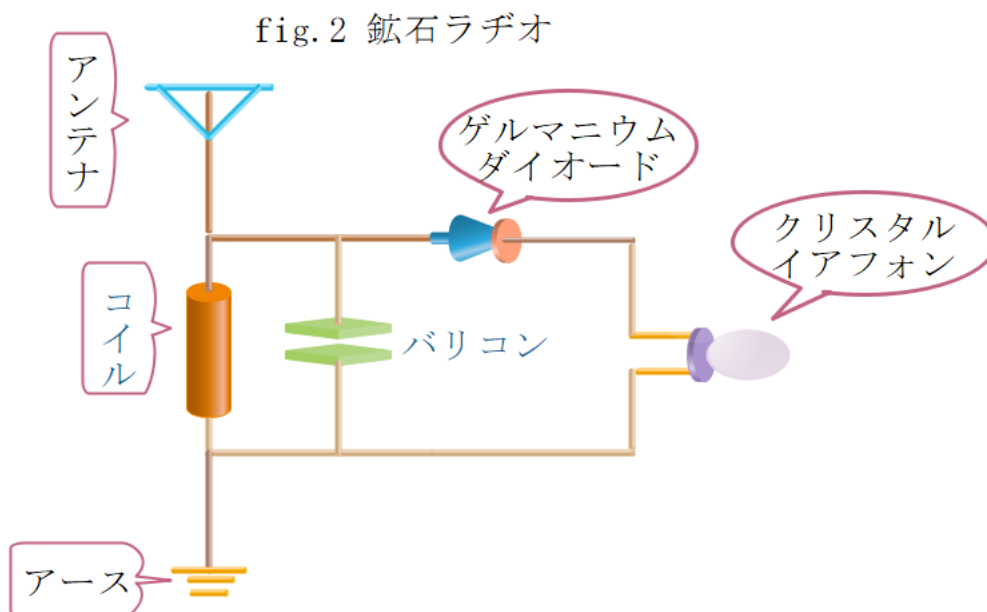
アンテナに入った電波は電流(交流)となって3つのルートに分かれて流れる。それらは(1)コイルを通過してアースへ、(2)バリコン(ダイヤルを回転させることによって、容量を変えることができるコンデンサ)を通過してアース(3)ダイオードを通過してイアフォンに達した後アースする電流である。このうち(1)と(2)は協力(共振)してNHK 第一だけを選び余計な電波をすべてアースへ追いやるのである。ダイヤルを調整することによりTBS(954 KHz)や



日本放送(1242 KHz)の電波に合わせることもできる。回路の計算を省いて結果だけを示すと、周波数  $f$  は

$$f = \frac{1}{2\pi\sqrt{LC}}$$

で与えられることがわかっている。ここで  $L$  はインダクタンスで一定であるが、コンデンサのキャパシティー  $C$  は変えられるので、聴きたい局の電波を選び出すことができるのだ。ラジオのコイルとバリコンがセットになっている部分を**同調回路**という。ここまでで fig.1(c) の電波だけを取り出したのである。なお、コンデンサの容量は一定に固定しインダクタンスを可変にする方法もある。



選別された電波（交流であるが）は、鉱石ラジオの心臓部ゲルマニウム・ダイオード(\*5)に導かれる。ダイオードは電流を1方向にだけ流す機能を持つ部品で、逆方向の電流はそこでカットされるのだ。つまり、交流はここで直流に変えられる。入力する電流は交流であるから、ダイオードを通過すれば波の下半分（逆方向の電流）はカットされる。こうして電波の「上澄み」だけを取り出すのだ。この部分を**検波回路**と呼んでいる。波の上半分に音声の形が残っているので、そこから音波を取り出すことが出来て、検波された電流がイアフォンに送りこまれると音声として聴くことができる。ただしこのままでは、搬送波が残っているので、高周波のブーンという雑音が混じっている。そこで、高周波を平滑にする装置をつけて音質をあげる、トランジスタを使って電波を増幅するなど、さまざまな工夫がなされている。なお、イアフォンの部分を**出力回路**と呼んでいる。空中を飛び交う、あるいは宇宙の果てから届く電波の強度はたいへん微弱である。しかし人類はこの弱い電波を捉え、その有効利用の方法を獲得した。まことに驚くべきものがある。

(\*1) 電磁波は電場と磁場の周期的な変化が(絡まって)真空中や物質中をつたわる横波であると定義される。空気中の電磁波のスピードは真空中のそれとほとんど変わらないが、物質中では波長によってそのスピードが変わる。電磁波については後の回でまた詳しく調べよう。遠赤外線は波長の上限が0.1mm なので、赤外線よりも長い波長の電磁波を電波と呼ぶことになっている。

(\*2) 真空中を伝わる電波について、波長×振動数=光のスピード、という関係があるので、波長が0.1mm ならばその振動数  $f$  は

$$f = 300000000 \div 0.0001 = 3 \times 10^8 \times 10^4 \text{ Hz} = 3000 \text{ GHz} \quad (=3000 \text{ ギガヘルツ})$$

これが遠赤外線の振動数の上限である。振動数を周波数と、ヘルツをサイクルと呼ぶこともある。長波よりも長い超長波も海中の通信に使われている。極超短波からサブミリ波までの電波をマイクロ波と呼び、電子レンジやスマホに使用されている。サブミリ波より一桁波長の短い電磁波が赤外線である。人の眼が可視光として捉える電磁波の波長は  $3.8 \sim 7.7 \text{ nm}$  という狭い範囲にかぎられる ( $1 \text{ nm} = 10$  億分の1メートル)。人の眼には、この宇宙に飛び交う膨大な量の電磁波のほんの一部しか見えていないが、人はその微小な範囲の中に虹の7色を見ているのだ。

(\*3) ライデン瓶は、ガラス瓶の内側と外側に金属箔を貼り付けて作った一種のコンデンサである。ここに大量の電気(電荷)を溜め込むことができ、直



流電源として使うことができる。

(\*4) FM 放送は周波数を変えるので、AM はあくまで横波であるが、FM は縦波あるいは音の粗密波に対応しているように思える。AM の音質が FM の音質より劣るのは、AM の高音域がカットされているためである。

(\*5) ゲルマニウムは原子番号 32、鉄と同じくらいの重さの元素のひとつで、青みがかった灰白色の金属。地表に広く分布する。本来の鉱石ラジオは、方鉛鉱、黄鉄鉱、黄銅鉱などが検波のために使われていた。

\*\*\*\*\*

#### 「住民運動・横浜新貨物線反対運動」 宮崎 省吾

[本稿は、一橋大学創立 150 年史準備室発行[Newsletter・NO4・2018.3 に掲載されたもので、加藤幹夫さんから提供されました。一部抜粋し、分けて掲載する予定です・事務局]

昨年(2017)、国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)で、ベトナム反戦運動や三里塚闘争・水俣病闘争などの市民運動・住民運動、全国的な大学闘争を中心にした、『「1968年」-無数の闘いの噴出の時代-』と題する企画展示が行われ、大きな関心が寄せられた。当時の当事者、同窓会程度かと思われていた来場者は尻上がりに若者が増加し、全体で2万人を超えた。10月21日と11月11日の講演会には、300人の定員をはるかに超える聴衆が集まり、中継室を設けるなどの大盛況となった。

展示自体は2部構成で、第1部がベ平連運動、地方都市(神戸)から、三里塚闘争、水俣病闘争、横浜新貨物線反対運動、第2部が(大学)全共闘運動となっていた。このうちの「横浜新貨物線反対運動」は「多数の住民運動の代表格」とされていた。

私は、自宅が至近距離にあったという全くの偶然からこの「横浜新貨物線反対運動」(1966-1981)のごく初期から終結まで15年間にわたって運動の中心部分にかかわり、計画の不当さと反対する住民の正当性を主張し、かつ工事を実力で阻止する行動をとってきた。

1968年、「朝日ジャーナル」(朝日新聞社)の「私にとっての市民運動」

の「論文募集」に応募した「横浜新貨物線に反対して」が準優秀作になり、これを受けて翌1969年、住民運動の構造と論理を私なりにまとめた「地域エゴイズムのすすめ—不毛な保守対革新の構図」が同じ「朝日ジャーナル」に掲載され、大きな反響を呼んだ。3000あったといわれた住民運動の現場から支持されただけでなく、宇井純氏(公害学、『公害原論』)から最後の理論的成果と評価され、また高島通敏氏(政治学)からは、私の文章に言及しながら「住民運動固有の論理を明らかにし、それが日本の革新勢力によって吸収しきれないものだということを明確にした」(『戦後日本の政治思想』)と評価された。一方、既存の政治勢力、行政、一般市民からの「地域エゴイズム礼賛とは何事か」というごうごうたる非難が集中した。

・住民運動はどのような時に、どのように発生するのか。(以下「横浜新貨物線反対運動」と「住民運動」は、前述歴博の紹介に甘えて、ほぼ同義のものとして使わせていただく。)

横浜新貨物線反対運動が発生したのは1966年9月である。横浜市港北区の一角で、この辺を貨物専用の鉄道が通るとの噂が飛びかい、地元の自治会の役員が選挙系列の市議に知っていることを地元の住民(主婦が中心)に説明させる、ということから始まった。30人ほどの路上の集まりで、一人の男性がこれは大きな問題だから、明日の日曜日に旦那方にも集まってもらって、みんなで相談した方がいいと提案し、翌目近くの高校の教室で同じような集会がもたれた。市議も何処を通るか細部にわたって知っているわけでもなく、結局正確な情報を自分たちで調べて、その結果をみてどうするか決めようということになり、活発な発言をした人を中心に7人の世話人を選んで散会した。世話人は地元自治会役員一市議一国会議員(いずれも保守系)という系列で国鉄(現JR)との面会をセット、計画が「東京—小田原間線増工専」として実在すること、既に運輸大臣の認可を得て、細部の最終決定の寸前であることがわかった。翌週の日曜日に約60人が集まり、すったもんだの末「篠原菊名地区貨物線反対同盟」を結成した。9月11日だった。最初の7人の世話人が、そのまま反対同盟の組織化の世話をするようになった。

その後の経過は全て省くが、住民の貨物線問題の受け止め方、あるいは拒絶反応は二つに集約される。

一つは、閑静な住宅地である地域に、こともあろうに貨物専用鉄道を敷くとは何事か、どんな理由があれこれは許されない。もう一つは、こういう無謀な計画が、関係住民に一言の挨拶もなく決められるとは何事か、の二点につきるといってよい。

この二つは全国に存在した住民運動の発生のほぼ共通した原点である。これに対する起業者(土地収用法の表現)の対席はこれまたほぼ共通している。第一は「公共性」を旗印にした計画の必要性の強調である。

曰く、通勤ラッシュ緩和のために既存の貨物専用線を客用に転用し、このため新しく貨物専用線を作らなければなりません。お住まいのところが第一種住居専用地区であることは承知しておりますが、法律上鉄道を新設してはならないという規制はございません。どこかには通させていただかなければならず、直接関係される方には大変ご迷惑をお掛けしますが、正当な補償も

いたしますので、よろしくご協力をお願いいたします。ごね得は許しません。騒音・振動等の鉄道公害、工事中の被害等については最小限にとどめ、万一被害が発生した場合は、金魚一匹死んでも補償いたします。

第二に一言の挨拶もないというご批判ですが、民主主義日本の法制にのっとり、国鉄が立案し、運輸大臣が民主的に認可なされたもので、住民無視というご批判はあたりません。

これを無礼といわずとして、何というか。言葉尻を捉えるようだが、国鉄は新設貨物線で買収(地上権設定を含む)の対象となる家屋を事業計画上「支障家屋」(建設大臣宛の土地収用法の事業認定申請書の文言)と表現してはばからない。冗談ではない。先住民の家に挨拶もなく土足で入ってきて、支障(邪魔)だから出ていけとは何事か、いくら口でうまそうなこといっても、聞く耳持たぬとなるのは当然である。電柱を始めありとあらゆるところに貼られたポスターは両手を広げてストップをかける住民と「黙っていれば貨物線が通る」「通せ住民の声・通すな貨物線」のスローガンが書かれていた。これが住民のもつ感覚であり、常識だった。

#### ・住民の気持ちをどのように訴えていったらいいのか。

しかしこれをどのように世に問うていくか、難しい問題だった。1960年代の初め頃までは、保守対革新の政治構図が定着していたように見えた時代だった。中央・地方を問わず政治・行政は保守に独占されており、60年安保闘争直後の総選挙でも保守は微動だにしなかった。住民が問題を革新に持ち込めば支援が得られると思うのも無理はない。例えば、有名な砂川闘争は、米軍の滑走路を延長する計画が町を分断することに反対する保守系町長が先頭にたつ(今からみれば立派な)住民運動だが、全学連を中心とする革新製力が反米軍基地闘争・反戦平和闘争として支援し、勝利した。他にも、蜂の巣城で有名な九州下笠ダム建設反対運動に九州地評が反独占闘争の一環として支援したような事例がある。

起業者側の運動への対応(つぶし方)は基本的には二つあり、一つは「アカ」攻撃、もう一つは「地域エゴイズム」攻撃である。「住民無視の・・・反対」の大義名分あるいは支援ほしさに「アカ」武装するケースは多々あった。三里塚空港反対運動は「空港問題」という降りかかった火の粉を払うのが原点だが、既存の全政治勢力・行政からの弾圧と孤立のなかで、新左翼諸派の支援を受け入れ、その政治路線での方針を掲げた。三里塚闘争は最後の百姓一撲(福田克彦)であったと同時に最後の左翼主導型住民運動であった。三里塚農民は農民運動の経験から革新支持のものもいたが、菅沢老人隊長のように三里塚御料牧場を三里塚の誇りとし、筋金入りの明治天皇崇拜者であった農民は多数いた。彼らが新左翼顔負けの超過激派として、反対運動の先頭に立ったのである。

しかし「三里塚空港反対」は共有されても「佐藤内閣打倒」、「日米安保体制打破」、三里塚を革命の根拠地に「全国を第2の三里塚に」という路線に完全に同化できるわけがない。起業者側の一般市民の共産主義アレルギーに便乗した、「アカ」は「革命」を目的にしており、「空港反対」は手段に過ぎな

い。「アカ」は「空港」よりも怖いから止めとけ、という宣伝が一定の影響を持つのは根拠のないことではない。これが内部分裂と社会的孤立化を図っていく卑劣きわまりない誹謗中傷であることは言うまでもない。少なくとも「三里塚空港反対」の一点に関するかぎり、新左翼諸派が命を懸けて闘ったのは紛れもない事実である。にもかかわらず、既成/新左翼の主要命題である、共産主義/社会主義革命路線に引っ掛かってこないものには無関心だったといつてよい。社会運動＝社会主義運動というのが通念だった。例えば、ごみ処理場反対、火葬場反対などになると手も足も出ないというより、理解そのものが出来ない。三里塚でも新左翼諸派は空港を「三里塚軍事空港」（太字筆者、以後同じ）と規定したが、こうでもしないと彼らの名分が立たないことをよく示している。ダム建設反対運動などでも、蜂の巣城のように九州地評が反独占闘争として支援したが、行政に対する闘いの戦闘性に同調することが主な動機であって、住民の生活擁護に同調するものではなかった。住民運動の原点とは、無縁のものだった。

さて、この「アカ」攻撃を克服あるいは回避しても、次の敵の手、「地域エゴイズム」攻撃が待っている。「公共の福祉」のための事業、ごみ処理場、火葬場、道路、鉄道、ダム、空港、火電、原発、軍事基地・・・に反対する運動は、みんな（公共）のことを考えない自分たちさえよければいいという「地域エゴイズム」であり、「けしからん」という攻撃である。何処かに空港は必要であり、原発はなければ真っ暗闇になり、ごみ処理場がなかったら一体どうなるのか、少しはみんなのことも考えよ！

この攻撃はまことにもっともに聞こえ、簡単に反論できるようなものではない。かといって大義名分を求めても、「アカ」武装に逆戻りするだけである。こうして「アカ」攻撃と「地域エゴイズム」攻撃に挟まれ、社会的に孤立し、個々バラバラになった地権者が個別に撃破されてご協力を強制されてきたというのが、大方の結末だった。

しかし、どう考えなおしてみても、計画が無謀なものであること、住民無視の一方的な決定と強行であることに変わりはない。住民の怒りは強くなるばかりである。われわれの言い分はもっともであり、誰もが分かってくれるはずである。丁寧で情理を尽くした陳情、請願が国鉄を始め、横浜市長・市会、神奈川県知事・県会、代議士、諸政党などありとあらゆるところに行われた。（つづく）

\*\*\*\*\*

## 随筆風「1950年代の僕と街」（12）

臺 一郎

### 中央線電車通学の思い出

昭和33年、僕は中高一貫の私立中学に進学し、それ以来電車で通学するようになった。平日の朝の中央線は、当然だが郊外から都心へと向かう乗客が圧倒的に多い。だから上り電車は凄く混む。僕の通学は荻窪で乗車し、国立で降りる下り方向だ。おかげで上りのようなすし詰め状態ではなかった。

電車で通学する中学生や高校生は、昔も今も、男も女も、毎朝同じ顔ぶれ

が、同じ電車の、同じ車両のドアから乗って、学校の最寄り駅まで行く傾向がある。群れたがるのだ。僕らの場合もそうで、中央線の中野や荻窪や吉祥寺などから、毎日決まった時間に、いつもと変わらぬ電車、車両、ドアから、お約束の顔ぶれが乗り込み、ワイワイ、ペチャクチャと喋りながら通った。

国立駅から学校までは、僕らの足で歩いて 15 分ほど。うっかり寝坊をしてぎりぎりの時間に国立駅に着いたときは、当時初乗りが 60 円だか 70 円の小型タクシーに僕と同じ様に寝坊した友達と相乗りで乗った。タクシーの運転手は学校の始業時間に間に合わせようと猛スピードで走ってくれた。道路はまるで滑走路のようにまっすぐ。渋滞なんて全くない。5 分で到着した。

毎朝荻窪からは僕を含めて 4 人ほどが、下りホームの一番後ろから決まった時刻の電車に乗った。いつものドアから乗り込むと、そこには中野などから乗ってきた仲間がいて、目が合うと『よう』と言って挨拶をした。荻窪から先の吉祥寺や三鷹などからも友達が乗り込んできて、国立駅に着く時には総勢 6～7 人になっていた。

中学 3 年生になって、電車通学にも慣れた頃、僕達の通学に新たな楽しみが加わった。僕らの乗る車両の一つ先のドア付近に、毎日ちょっと華やかで可愛い女子学生 3・4 人が乗っていることに気づいたのだ。彼女達は僕らより 1 学年下。やはり国立市にある私立の音楽大学の付属中学校に通う女子学生だった。その学校は制服がなく、女子学生は全員私服を着ていた。

音大付属など芸術系の私立学校は授業料が高い。必然的に裕福な家庭の子が多くなる。通学に着てくる私服の服装もおしゃれで華やかな感じの生徒が多かった。地味なスーツの通勤者や、黒の学生服や紺のセーラー服の通学者が多い朝の電車の中で、彼女達のいる一角は、可愛くて綺麗な花がパッと咲いている感じだった。少なくとも僕はそう感じた。自然界では、綺麗な花には虫が寄る。僕らはまあ虫のような存在だった。

小学生時代は、例え内心興味を抱いていても、女子生徒とは常に一線を引き、時に反目しあい、決して仲良くなんかしくなかった。そんな男子生徒も中学に入り 2 年生や 3 年生になると、急に色気づく。女子のことが気になり始めるのだ。僕らもまさにそうだった。おまけに毎日僕らの電車に乗ってくる女子学生は、全員がおしゃれな私服を着て、華やかな雰囲気だった。意識をするなど言うほうが無理であった。

毎日電車の中で、こちらがチラチラと見れば、彼女達が気づかないはずもなく、彼女達も僕らをチラチラと見返すようになった。それだけでも僕達は少しウキウキした。

僕達にとって、毎朝の電車通学は 1 年生の時とは違った意味や楽しさを持つようになった。電車に乗っている時間は 25 分位だが、もう少し長くても良いくらいだった。そんなわけで、通学は僕達にとって義務的でやむを得ないものではなく、「さあ今日もあの電車に乗るぞ」という前向きで楽しいものとなった。

さて、その 3・4 人の女子学生の中に、ちょっと大人びた何となく色っぽい雰囲気を放っている娘がいた。当然彼女は僕達の関心の的となった。

誰がどうやって調べたのかは不明だが、やがて彼女の名前や住んでいる場所がわかった。その後もこの音大付属の中学校や高校に在籍するちょっと綺麗な生徒や可愛い生徒は、いつの間にか名前や住んでいる街などが僕らに知られるようになった。きっと僕らの学年や上の学年に勇気のある生徒がいて、



音大付属の中高の女子生徒の誰かに話しかけ、親しくなって聞きだしたに違いない。

今と違って、出会い系のサイトもSNSもなかった時代だ。僕らにとって中央線の電車は、自分の好みや気になる女子学生との出会いや、彼女らにそれとなくこちらの関心を目線で送る貴重な時空間となったのだ

\*\*\*\*\*

## ＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（４８）

大竹 漢洲

### 周山街道の古刹 3・鷹ヶ峰の古刹，源光庵

J R 東海は春と秋に毎年「そうだ京都へ行こう」のキャンペーンを行い、京都で今盛りの花の古刹が紹介されます。2014年秋のキャンペーンの古刹は、鷹ヶ峰にある「源光庵」です。「丸い窓」と「四角い窓」の先には燃える様な紅葉の写真が印象的です。鷹ヶ峰の古刹・光悦寺は知っていました。以前に加藤の両親と訪れたこともあります。鷹ヶ峰は京都の北にあり、昨今宅地開発で人口も増えてアクセスは便利です。四条大宮駅で京都市バス・6号系統玄琢行に乗車して「源光庵」前で下車すると目の前が古刹・源光庵と聞きました。交通機関の便利な名所旧跡は観光客が大勢訪れるのが常です。バスも混んでいる予感もします。躊躇無くタクシーで源光庵に向かいました。

鷹ヶ峰は五山の送り火の一つ左大文字の北方に位置しています。鷹ヶ峰三山と呼ばれ、鷹峰・鷲峰・大峰が連なる山間の地域にあります。かつて京都七口の一つ「長坂口」から、丹波国・若狭国に通じた主要な交通の要衝でした。日本海の高産物が都に運ばれた、“鯖街道”の出入口として大いに栄えました。

豊臣秀吉の命を受けて、洛中への外敵侵入を防ぐ目的で、洛外との境に「御土居」を構築して以降、人々が集まり集落が誕生しています。人々の多くは“鯖街道”で荷物運搬の労働に従事していました。この地域の発展に貢献した人物の一人に本阿弥光悦がいます。

1615年、従来から辺土に居住を希望していた光悦は、徳川家康から御土居以北の膨大な土地を拝領され、一族縁者を伴って移り住み、やがて光悦を慕っていた若い職人も商人も集まり、新しい文化集落が形成されていきました。「光悦村」として京の文化 芸術の一大拠点になりました。

もう一人、この地域の開発に忘れてはならない人物がいます。御殿医藤林道寿です。藤林一族が移り住み薬草園「鷹ヶ峰薬園」を開作しています。当時では入手が難しかった野菜類の生育に携わりました 栽培された大根、朝鮮人参、唐辛子は特に需要が高く、毎年幕府に多量な種類の野菜類や薬草類が納められました。 1

今日でも京野菜の一大生産地としての位置を保ち続けています。上記三種の野菜の他に聖護院大根、鷹峰ねぎ、鹿ヶ谷南瓜が生産され、京都に旅して、新鮮で美味しい京料理を口に出来るのも、御殿医藤林道寿の貢献のお陰です。

その後、光悦はある事件に関わり、拝領した土地を幕府に返上した後、光悦村は急速に衰退していきました。一方で建立されていた光悦寺、妙秀寺、



常照寺、源光庵の寺院に支えられた宗教色の強い地域に鷹ヶ峰は変わっていきます。

源光庵は北鷹峰町の中心に在り、南には光悦寺が、北には常照寺が近くに並んでいます。現在の源光庵・本堂は、元禄七年（1694年）の創建であり、金沢の富商・中田静家居士寄進に縁っています。前身の寺は更に古く、今より660余年前に臨済宗大徳寺住持の隠居所として連立されたことが寺歴に残っています。その後、源光庵は廃寺となりましたが、加賀大乘寺の卍山道白禅師が住持につき、本山の宗派曹洞宗に改めて今日に至っています。鯖街道を通じて福井、金沢、との人的物的交流が活発になり、物資の輸送に関わった北陸の人々が多く移り住んだことも、曹洞宗系の寺院が創建された背景にあったに違いありません。

源光庵は小さな古刹です。本堂と開山堂二棟の堂宇と庭園が全てです。JR東海のコマースヤルの力は大変な効果で、小さな古刹は観光客のおばさんたちで群れています。静寂な古刹の風情は全く感じられず、コマースヤルの世界と格段の差がありました。本堂に開いた「丸窓と角窓」が主役です。左右にある窓の前に座り込んだくおばちゃんたちは、悟りが得られないのか？何に魅入っているのか？なかなか立ち上がろうとしません。

因みに丸窓は「悟りの窓」と名付けられ、角窓は「迷いの窓」と呼ばれています。源光庵は曹洞宗派の禅寺です。禅の心に基づいています。「悟りの窓」は円形です。円は「禅と円通」を表し、「大宇宙」を表現しています。「迷いの窓」は四角形で、角は「人間の生涯」を象徴して、人間の苦である生病死老死を表していると言います。受け売りです。くおばちゃんたちは悟れずに「迷いの窓」の外の紅葉を眺めていたに違いありません。

人の心は移り気です。昨年（2014年）訪ねた源光庵に今年も訪れて見ました。JR東海の秋のキャンペーン「そうだ京都に行こう」の昨年とは全く様変わりです。源光庵は小さいながら古い古刹で広くありませんが、ゆっくり「悟りの窓」「迷いの窓」と、前に座り自分自身の行く末を瞑想しました。結局のところ、悟りの境地には達しませんでした。しかし二つの窓を眺めて人には決して変えられない「定命」があり、日々自然に生きることの大切さに至りました。これも、悟りの一つなのかもしれません。

『定命』は変えられませんが、人間には全て明日があります。大切な明日にしたいものです。今年も未だ悟りを得られず、座り込んだままのくおばちゃんたちの姿もありました。

ここ源光庵にも「血天井」が見られます。関ヶ原の合戦で、家康が捨て石とした伏見城で奮戦した鳥居元忠以下忠臣たち340名の流した貴重な戦死の証です。

この意図的な家康の策略が、豊臣家恩顧の大名たちを1日にして、徳川方の味方につかせ、関ヶ原の合戦を勝利に導いています。

余談です。徳川家がこの評定を行った場所が栃木・小山近郊であり、我が郷里の近くです。余談の余談です。来年NHK大河ドラマ[真田丸]が放送されますが、主人公は昌幸の次男幸村です。この評定の後に真田家は命運を賭した決心をしています。長男信之は徳川方に、父と幸村は豊臣方に分かれて真田家の存続を図ります。上田城で昌幸・幸村親子は、中山道から関ヶ原に

進軍する徳川秀忠軍を上田城で引き付ける戦を行い、秀忠が到着に遅れて家康から叱責を受けたことは有名です。この決断を父昌幸が下した場所が、我がゴルフ倶楽部の唐沢の入口「犬伏」です。

鳥居元忠にしても、真田昌幸・幸村親子も、決して避けることのできない『定命』に従って決断をしたに違いありません。人間の生き方は『定命』に基づくと考えれば、決して悩んだり苦しんだりはしません。

\*\*\*\*\*

## “思えば遠くへ来たものだ” 津田孚人

冒頭の「テンチトゥデイ」にありますように81歳を迎えて、遠くまで生きしてきたもんだと痛感しています。これまでのこと、今までも時々書きましたが、あえて書かないところもありました。心新たに少し書きます。

スタートは、会社に入って10年、初めての転勤先、広島からにしました。

### 広島時代

西日本豪雨で被害の大きかった広島市安佐地区、安佐動物公園があって子供を連れて良く行きましたので、馴染みがあります。安佐の住宅地は、前回2014年にも大被害を受けています。広島市内は平坦な土地が少ない上に、地盤が悪いので高層建物が少なく、郊外にマイホームを求める人が多い。安佐地区は市内に比較的近いので、人気がある、と言われた記憶があります。

広島は、家族で東京を離れて長期に住んだ最初の地方都市なので、第二の故郷のような愛着があります。オイルショック直後の1949年4月から1951年3月までの二年間、広島市の中心地からは、歩いても30分もかからない段原にあった古い社宅に住みました。比治山の裏手になるため、原爆の被害を免れた地域ですが、建て替えが未だの古い家が多く、そのせいか昔の人情が残っていました。

その頃の広島市は、<陸の孤島>の感がありました。新幹線は岡山までで、広島へは山陽本線に乗り換えさらに2時間かかりました。飛行機も、当時の広島空港が狭くてジェット機は飛ばずYS11がもっぱら運行していました。東京への出張の帰り、悪天候で飛行機が大揺れしたときに故大平首相が乗っていると知り、さすれば操縦士は腕が良いだろうと安心したことを今でも覚えています。東京への出張には、時々夜行寝台「あさかぜ」を利用したりしていました。

広島は、中心地に原爆が落ちたので空白地帯ができ、そこに、戦後、郊外や、九州、四国、山陰などから人が入り込み、街を形成したとのことでした。昔の広島の良いさが消え、気風が荒く、まとまりの薄い都市となってしまったと聞きました。実際に市内でタクシーに乗ったとき、道を譲れとお客を置いて外に出て喧嘩をする運転手もいましたし、地元企業へ新任挨拶に行った時に、最初から大声で苦情を言われ、不快に思った経験もありました。初対面の相手に、先に“一発かませる”のが<広島風習>と後で教わりましたが・・。

40年代後半以降、大企業の設備投資が一段落して資金需要が減り、さら

に資本市場での時価発行が可能となって大企業の資金調達が容易になったので、どの金融機関も、中小企業取引の開拓に向かわざるを得なくなりました。地方の優良企業へのアプローチもその一環でした。

仕事は、中国4県(広島、岡山、島根、鳥取)、担当の財務駐在でしたので、半分は広島。残りは岡山と島根、鳥取という感じで一ヶ月を過ごしていました。その間に、決済をもらいに大阪へ毎月出かけましたので、デスクワークは苦手になり、後年も全国を飛び回る仕事が多くなりました。

最初の頃、松江、鳥取への出張は、芸備線の夜行で行きました。特急は無く、急行でしたので途中から普通になります。朝になって洗面所に行くと通学の女学生がいっぱいで往生すること度々でした。その後、懲りてバスを使うことが多くなりましたが、冬場に中国山脈を越えて走るときは、両側が高い雪庇で囲まれ、恐怖を感じるほどの道路でしたので、頂上の赤石峠(?)のバスストップでたいていの乗客は、温かい“うどん”を食べて息をつきました。広島のバスセンターから松江市内まで約8時間、退屈なバス旅の“唯一の楽しみ”だったかもしれません。

大雪の積もる中国山脈を松江へ下っていくと雪はだんだんと減り、松江市内に入るとほとんど雪が積もっていないのでホッとしましたものです。また、広島へ帰る時にみる宍道湖の沈む夕日は、格別でした。バブル景気の時、関東、関西の大手資本の開発が唯一及ばなかった山陰地方、資金需要は、温泉旅館くらいしかありませんでした。出張したときに泊まった東郷温泉、あまりにも印象が良かったので、退職後夫婦で再訪しましたが、様子がすっかり変わっていました。山陰地方も足立美術館などもできて、すっかり全国レベルの観光地になったようです。

1950年に広島カープが初めて日本一になったとき、転勤族は、流川、薬研堀など、夜の街で大騒ぎをしていましたが、地元出身者は、自分の席で涙を流し、ささやかな祝いをしていました。プロ野球が昭和26年、2リーグに分裂、市民球団として立ち上がった広島カープは資金難で、当初は市民球場にドラム缶を置いて市民の寄付を集めたそうです

戦前から野球の盛んだった広島、市民球団をもつことで、原爆で希薄となった県民意識と一体感を取り戻したいと目論んだのではないかと勝手に推測しています。今もって市民球団であり続けるところに、広島の特異性が残っていると感じています。

\*\*\*\*\*

## 文化講座・講演会

\*\*\*\*\*

### 奈良興福寺文化講座 2018年8月9日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講「中金堂と法相宗」

興福寺教学部員 Saile 暁瑛

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学) 文化学園 文化服装学院内  
受講料：500円 先着200名  
(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

\*\*\*\*\*

### 第97回 新三木会 講演会のご案内

1. 日時・会場 2018年8月16日 13:00-15:00  
如水会館 2F スター・ホール
- 2 『戦場と兵士—アジア・太平洋戦争期の日本軍』  
吉田 裕氏 一橋大学大学院特任教授
3. 申込・会費 E/Mail: [shinsanmokukai@gmail.com](mailto:shinsanmokukai@gmail.com)  
Tel: 047-464-4063  
フルネーム: 一般・天地シニアネットワークと伝えてください
4. 会費: 2000円 婦人 1000円 学生無料  
茶話会: 15:15-14:20 千円 (自由参加)
5. ホームページ  
<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>
- 6 今後の予定

第98回 9月20日(木) 『明治維新から150年、語り伝えたいこと』  
秦 郁彦氏 日本近現代史、軍事史研究家  
第99回 10月18日(木) 『人工知能研究の目指す処』  
杉山 将氏 東京大学大学院教授、  
理化学研究所革新知能統合研究センター長

\*\*\*\*\*

## 事務局

\*\*\*\*\*

<投稿歓迎><図書のおすすめ依頼>

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を編集してプリント版を月に1回発行郵送しています。お申込みくださればお送りします。

一応、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますが、強制するものではありません。

<振込先>振込先: 三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532  
(口座名) テンチシニアネットワーク

天地シニアネットワーク・テーブル・475号

発行: 2018年7月17日

天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

住所：〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：[tentisenior06@gmail.com](mailto:tentisenior06@gmail.com)

電話・FAX・03-3819-7651

携帯電話(津田)：090-2534-1316